

- ① てんのう、こうごうりょうへいかがしろのいせきをたずねられ、おさめられたほうせきのでんじをごらんになった。
- ② さくばん、よくばってごはんをおおりにしたので、はらがいたくなりこまった。
- ③ ちちのたんじょうびに、ひみつできょうりのおんせんへりょこうのけいかくをたて、おやこうこうした。
- ④ しりしよくをすて、せいしんせいひとにつくすがたにそんけいがあつまった。
- ⑤ ちいきのとうろんかいでは、いくどうおんにひていいけんがでてかいけつさくをみつけるのはむずかしかった。
- ⑥ よのなががみだれると、ぜんいのかちがわすれられ、りこてきなかんがえをもつわかものがふえる。
- ⑦ われわれのしあいは、はげしいてんのとりあいになり、えんちようせんにもつれこむきびしいものとなった。

小六書き ②

① せんたくものがなんまいでもほせるように、のびちぢみするぼうをほきょうした。

② かんたんなそうさくげきをするため、ばんそうをたんとうしてくれるひとをさがした。

③ さんちようのおじぞうさまにこくもつをそなえ、ろうぼうがとどくようにおがむのは、

ひとつのしゅうきょうのかたちだ。

④ はんじゆくゆでたまごときとういりこうちやが、のうをかっぱつにさせるかはんしんはんぎだ。

⑤ すなはまにえがかれるもようは、しおのみちひきによってつくられる。

⑥ しょうらい、うちゅうにくらすため、でんじはとほうしゃせんをとりのぞくそうびがひつようだ。

⑦ ゆうひにそまるじゅもくをはいけいにしたかしをつくって、せんせいからひひょうされた。

小六書き ③

① こっかにちゅうせいしんをもつせいとうが、けいざいかくをおこなうためのりっぱなせんげんをした。

② よくあさ、しょうじまどのそとにはつららがたれさがり、はいいろのくもがひろがっていた。

③ ないかくはけんぼうやほうりつにしたがい、じょうやくへのかめいなどをはなしあう。

④ おねにはしんぞうやこきゅうのやくわりをもつはいがあり、ふといほねにまもられている。

⑤ かくだいでいたてっこうなどをあつかうじゅうこうぎょうも、きぬのせいさんやようさんぎょうとおなじようにし
ゆくしょうした。

⑥ ちよめいなしきしゃは、ゆうしゅうなえんそうしゃのけっせきでコンサートをえんきした。

⑦ 「しよくん、りんきおうへんにすいりをしよう。」というメモがけいしちょうのしよちょうのつくえにおかれていた。

① おにはいっすんぼうしのはりにきずつき、いっこくをあらそうあぶないじょうたいになったが、しばうはまぬがれた。

② せんようしゃのでんしゃちんをはらったが、きりかぶのようにかたいぎせきだったのでおりてしまった。

③ ぎっしのかんまつにたんじゅんなごじがみつきり、たいりょうのさっすうをしきゅうかいしゅうしてしょぶんした。

④ せいかはきょうぎじょうのかいだんのうえでせいかだいにともされ、オリンピックのかいまくにこうぶんした。

⑤ てんらんかいでは、ぎんがけいのしゆくしゃくずやつきのうらがわのえいぞうをうつし、きちょうないんせきをてんじしていた。

⑥ ゆうびんきょくは、こうしゅうのしてんにたったべんりさがみとめられている。

① じんあいのころにあこがれ、かんごしとしてじたくちかくのびょういんにしゅうしょくできた。

② あたかいはるをよんだはいくでは、できたやくをせつめいした。

③ けんぼうには、こくみのけんりときむがさだめてあり、さいばんをうけるけんりもそのひとつだ。

④ ちそうにそって、いくつものすじとあながそんざいし、じょうきがたてにぬけてあがっている。

⑤ そのほいくえんでは、ようじのはんはたいそうをさせ、にゅうじたちはならんでやすませる。

⑥ しゅっきんまえには、かたづけはともかく、テレビのでんげんをきり、ドアのかぎをしめよう。